

「おじちゃんち」(仮称)が出来るまで

二〇一四、平成二十六年十一月二十九日

社会福祉法人 こひつじ会 市川 益子

久し振りの職員結婚式、祝辞に「普通の人が一番いい」と言ってしまった。何故か献堂式とダブっていたのかも知れません。

行田の職員の「おじちゃん」こと私の弟はまさに「普通の人」だった。正直で不器用で無口だけど心はいつも人の心に寄り添うあたり前。人を愛する人だったから、人から愛されたと言えるのか？と、それが一番幸せ「普通の人」なんだなと思いました。

子ども大好き、車大好き、自然が大好き、まさに行田で用務員の職場がピッタリでした。人の為に良かれと思う心と、行いが時には、この世に於いては楽しい事ばかりとは言えない時であっても、子どもに救われ癒されてとても幸せだったと思う。

亡くなって初めて初めて愛の深さ、大きさを子どもの中の心の中から気付かされました。子ども達が慕うさまじまなことは、悲しみに思う・行動・等を連絡帳で知ることが出来て、正直驚きそのものでした。

☆大人にはわけのわからない泣く子どもの心の中に、月一度、三年経っても親子で花を持って写真に会いにくる姿☆それを見習って、僕も私もとひとひらを、ひと枝を、雑草をと、毎日持って挨拶する子達の姿☆心の内を手紙にして行く卒

園児達☆中学生、高校生で写真の前で泣く(祈る)姿☆連絡帳へと綴られた保護者の感謝のことば☆職員や保護者が子どもとの夢で会ったと言う姿それ等が具体的現象になって、只々思いがけない主の栄光としか思えません。それに押し出されて今日の日となりました。子ども達の姿、不思議な出来事、これはどう考えてもおじちゃんがいるとしか考えられない。その後のいくつかの出来事。頼んだわけでもないのに。

40周年を祝う年にクラウデアさんをロシアからお呼びした時に関わりのある村尾先生によって絵本となり、不思議な出来事を追記で様々な新聞や講演会で広がり、日本中の子どもから大人、様々な年令、職業、関係なく、こともあるうか宮内庁へ、皇后様へと。三回忌にはおことばを頂く事に、感謝のことばありません。

そして知人が知人へと広がる中でスイスイリバーの石橋夫妻による CD となったり。在園、卒園児、が保育園へ来たいの声に励まされたり、「月一回でもいいから充電に来ていい？」等々の声に押し出され、導かれるまま増築の夢の実現へと歩み出していました。

土地を得る事から建築許可の為の役所通いは田部井建設(株)の河内さんの忍耐と不屈の精神に励まされた。その間ここにたどり着く間にとてつもなく大きい夢にひたつたMAN 90 鳴瀧さんを通しての業者さんとの夢は開発課を崩すことは出来ず、実現に至りませんでした。必ず時を得て成る日

を信じてます。しかし一度私の中に落ちた一粒の麦の種（おじちゃんを想う子どもの心を受け止めたい）は人の力でも想いでもない、神の計画によって成就されなければならなかったと言う事でした。そして一から出直し、創建さんとの出会い「みこころに叶う願いは必ず成就する」と聖書によって固く信じている私には迷いはなかった。

何一つとして私の考えではなく、多くの子どもたちの心が神様によって「よし」とされた事を感じざるを得ませんでした。具体的には今日ここにお集まり頂いた皆様と共に、未だ正式の名もないこの館が、補助金無しに子ども達の願いを受け入れて実現に至らせられた事を心より感謝申しあげます。そして、これはほんの一粒の麦の種が落ちたに過ぎず、これを育て、花を咲かせ実を成すのは、この館と共に一人一人のみこころに叶った願い、祈り、行いによって進められなければと。百年先まで持つ建築をと創建さんとの出会いにより完成しました。自然の中に生きた木は人の中で「元氣」「本氣」「やる氣」を養ってくれると信じそんな木の部屋で豊かな情緒が養われ育つ事を信じています。

そして百年、何百年も主と共に歩むこひつじ会であるようにと。今日集って下さった不思議な神の導きによる、御一人一人の人生が祝福されます事をいのり、主におゆだねして感謝のことばと致します。ご参加ありがとうございます。

